

2020 年 5 月 12 日

(株) ジャパンリスクソリューション

新型コロナウイルス感染者、死亡者に関する現状分析 先進 15 ヶ国比較を中心に【3】(5 月 9 現在)

<利用データ>

読売新聞朝刊「主な国・地域での新型コロナウイルスの感染状況」(毎日掲載)、厚生労働省、各自治体、WHO、米ジョンズ・ホプキンス大学、フランス政府公表の統計等。

4 月 12 日、4 月 27 日の JRS レポートに引き続いて、5 月 9 日現在における新型コロナウイルスの感染状況の国際比較(先進国 15 ヶ国)を行います。4 月 11 日から 1 ヶ月経過後の比較となります。

結論としては、各国の数字はそれぞれの勢いに応じて増加しているものの、全体としての傾向は、英国の増加は目立つ他は特に大きな変化はなく、欧米諸国に対して日本の感染状況が桁違いに低いという結果は変わっていません。

(今回も統計的に不安のある中国とロシアは比較の対象とせず、参考にとどめた。)

<サマリー>

- ・ 感染者数は、米国が引き続きトップで、韓国が最も少なく、次いで日本が少ない。
- ・ 人口千人当たりの感染者数は、引き続きスペインが最も多く、日本が最も少ない。
- ・ 死亡者数では、米国が最も多く、韓国が最少、日本は韓国に次いで二番目に少ない。
- ・ 人口 10 万人当たりの死亡者数では、ベルギーが最も多く、日本が最も少ない。
- ・ 日本の感染者数、死亡者は欧米諸国と比して著しく少なく、韓国と並んで際立った特徴となっている。
- ・ 前回レポートNo.5 で、韓国では新型コロナ禍は収束の方向にあるとしたが、ソウルのナイトクラブ発の集団感染が報告され、予断を許さない状況となった。
- ・ 1 ヶ月間で感染者数が大きく増加したのは、米国 (2.70 倍)、カナダ (3.19 倍)、スウェーデン (2.61 倍)、英国 (3.16 倍)、日本 (2.53 倍) である。
- ・ 日本は死者の増加率でトップの 5.01 倍となっているが、絶対値は 606 人と最大の死者数の米国の [125 分の 1] となっている。

1. 先進 15 ヶ国のデータ比較

分析は【表 1】から【表 5】にまとめたが、現時点で結論的に以下のことが観察される。

(1) 感染者数では、米国が引き続きトップで、韓国が最も少なく、次いで日本が少ない

比較した15カ国中感染者数が最も多いのは米国の125万6,972人、最少は韓国の10,708人、次いで少ないのが日本の12,861人である。ワースト7ヶ国は、下表のとおり。

	国名	感染者数(人)
1	米国	1,256,972
2	スペイン	221,447
3	イタリア	215,858
4	英国	207,977
5	ドイツ	169,430
6	フランス	137,779
7	カナダ	66,201

14 日本 15,662

15 韓国 10,822

1ヶ月前に比して、カナダ3.1倍、英国3.1倍、米国は2.7倍、スペイン1.4倍、イタリア1.5倍、ドイツ1.4倍、フランス1.6倍となっている。英国、カナダ、米国、スウェーデン、日本の増加が著しい。英国を除く欧州10カ国の平均は1.6倍。日本は2.5倍と相対的に高いが、実数は欧米と比してはるかに少ない。

韓国は1.04倍とほとんど増加していないので、収束方向を思わせたが、最近になってソウルのナイトクラブでの集団感染が出るなど、予断を許さない事態となっている。韓国の現象を第二次感染とする観測もあるが、実際は第一次が終わっていなかったのかもしれない。韓国では4月15日に国会総選挙が行われており、選挙活動等で通常では見られない人の出入りがあったと考えられ、2週間後の4月末から5月初めにかけて発症が始まるというはありうることである。

(2) 人口千人当たりの感染者数は、スペインが最も多く、日本が最も少ない

各国の人口千人当たりの感染者数は、スペインが4.74(3.39)とトップになり、最少が日本の0.10(0.05)である(()内は前回の数値)。ワースト7ヶ国は、下表のとおり。

	国名	人口千人当たりの感染者数
1	スペイン	4.78
2	ベルギー	4.58
3	米国	3.90
4	イタリア	3.63
5	スイス	3.60
6	英国	3.16
7	ポルトガル	2.63

人口千人に対し、何人の感染者がいるかという指標である。一国の中でも都市部とそれ以外の地では濃淡があると思われるが、国全体の指標として人口と対比した感染率を算出すると、欧州諸国が高く、米国は感染者の数は多いが、率ではそれほどでもない。日本は、0.12と欧州10カ国平均3.02に比して桁違いに低い。

- 14 韓国 0.21
 15 日本 0.12

(3) 死亡者数では、米国が最も多く、韓国が最低であり、日本が二番目に少ない

死亡者数は米国が 75,670 人 (4 月 11 日時点で 16,703 人) と最も多く、英国、イタリア、スペイン、フランスと続き死者数が万単位である。日本は 606 人 (121 人)、韓国 256 人 (208 人) に次いで少ない。英国が急上昇したのは、死者のカウント方法の変更 (これまで介護施設等で死亡した人がカウントされていなかった) があったからである。

	国名	死亡者数 (人)
1	米国	75,670
2	英国	30,689
3	イタリア	29,958
4	スペイン	26,070
5	フランス	25,987
6	ベルギー	8,521
7	ドイツ	7,392

死亡者数のワースト 7 ヶ国は、感染者数ワースト 7 ヶ国とほぼ同じ顔ぶれとなっている。死者の実数としては米国が最も多いが、欧州各国が EU として、事実上国境の垣根を廃止していたので、欧州大陸を一つの塊とみると、米国よりはるかに多い死者数となっている。ここでも韓国と日本の死者数の少なさが際立っている。

- 14 日本 606
 15 韓国 240

1 ヶ月前と比較して、死者数の増加の状況は、米国 4.5 倍、英国 3.8 倍、イタリア 1.6 倍、スペイン 1.6 倍、フランス 2.1 倍、ベルギー 2.8 倍、ドイツ 2.8 倍、日本 5.0 倍、韓国 1.2 倍となっている。

(4) 人口 10 万人当たり死亡者数では、ベルギーが最も高く、日本が最も低い

各国の人口 10 万人当たりの死亡者数は、ベルギーが 75.0 (26.5) と最も高く、スペイン、イタリア、フランス、英国と続く。2 週間前に比して、ベルギーが 3 位からトップになっている。死亡者数が最大の米国は、15.5 (5.1) と 9 位 (2 週間前と同じ) となる。日本は 0.27 (0.09) と最も低い。韓国 0.47 (0.41) は日本の 1.7 倍となっている。ワースト 7 ヶ国は、下表のとおりである。

	国名	人口10万人当たりの死者数
1	ベルギー	75.0
2	スペイン	56.2
3	イタリア	50.4
4	英国	46.6
5	フランス	40.1
6	スウェーデン	32.2
7	オランダ	31.6

14 韓国 0.50
15 日本 0.47

人口10万人に対し何人の死者がいるかという指標である。欧州諸国が高く、米国は感染者の数は多いものの、人口対比ではそれほどでもない(23.4と8位)。

日本は、0.27と欧米に比して桁違いに低い。千人当たりの感染者数と同様、アジア諸国は低い特徴がある。

欧州諸国はみな高く、最低のオーストリアでも7.0と日本の14倍以上ある。もし、日本がオーストリアと同じレベルの死者割合であれば、日本の死者数は9,000人を超え、最悪のベルギーと同じレベルであれば、96,000人を超えることになる。

2. 感染者死亡率

各国の感染者数に対する死者数の割合(感染者中何人が死亡するか)は、フランスが最も多く18.86、すなわち感染者100人出ると、18人~19人が死亡している。ベルギー(16.38)、英国(14.76)、イタリア(13.88)、スウェーデン(12.57)、オランダ(12.71)、スペイン(11.77)と続く。日本と韓国の低さはここでも変わらない。

順位	国名	感染者死亡率
1	フランス	18.86%
2	ベルギー	16.38%
3	英国	14.76%
4	イタリア	13.88%
5	スウェーデン	12.57%
6	オランダ	12.71%
7	スペイン	11.77%
8	カナダ	6.86%
9	米国	6.02%
10	スイス	5.99%
11	ドイツ	4.36%

感染した人の10%以上が死亡している国

12	ポルトガル	4.09%
13	オーストリア	3.89%
14	日本	3.87%
15	韓国	2.37%

感染者死亡率は、その国の医療水準（質と量）に大きく依存するものと考えられるが、もっとも重要な要素は量、すなわち急激に増加する感染者を適切に収容する施設があるか、重篤化する症状に応じた治療がどれだけの規模で行えるかであろう。各国の感染症に対抗する医療の質と量がどうであったかは、今後の検証に待つしかない。

3. 考察

(1) 日本は、国際比較において韓国とともに感染者数、死亡者数あるいは人口比率での指標が桁外れに低い。

日本において新型コロナ検査がいきわたっていないことが低い数値の理由であるとする見解もあるが、一方表面化しない感染者が多数いるとしても、一定割合で重篤化し死に至る確率があるにもかかわらず、日本においては死者や重篤患者が爆発的に増えているという現象もない。

(2) 韓国については、日々の感染者数が4月に入ってから感染者の増加が少なくなっていたので、新型コロナは収束の方向にあるようだと言った前レポートで報告したが、5月9日以降これまで1桁台であった感染者数が、2桁となり増加し始めている。

- ・ 5月1日～8日までは毎日の感染者の平均増加人数が6～7人。

- ・ 9日12人、10日18人、11日34人、12日35人。

一方、台湾はほぼ抑え込みに成功しているように思われる。(感染者数は440人。5月1日から12日までで11人しか増えていない。)

(3) 感染者死亡率は、国によって大きな差が出ている。急激に増加する感染者に対し、症状に応じた治療がどれだけの規模でどれだけ効果的に行えるかによって差が出ているものと考えられる(つまり“医療崩壊”していないこと)。

フランス、ベルギー、英国、イタリア、スウェーデン、オランダ、スペインでは、100人の感染者が出ると、そのうち10人以上が死亡していることになる。日本は現在のところ3.87%となっている。

(4) 「欧米諸国と比べて、日本は新型コロナウイルス対策として、日常生活の上で罰則を伴うような強制力をもったものがほとんどなく、政府や自治体からの“要請”、“自主規制”や“自粛”にとどまっている。これに対しては批判もあるが、国際的比較で現

れる客観的な数値を見る限り、日本のこれまでの対策が効果的でなかったとまでは言えないように思われる」という前号レポートの考察は、現時点でも維持できると考えられる。

(5) スウェーデン方式をどう考えるか

スウェーデンは、ヨーロッパ諸国で唯一、厳しいロックダウンを行っていない。オフィスや店舗の休業を求めず、大学、高校以外の学校は閉鎖もしていない。50人以上の集会は禁止されるものの、国民に行動の制限は課していない。日本と同程度かそれよりも緩い規制措置となっている。ウイルスにさらされる人を増やして「集団免疫」を獲得し、感染拡大の第2波を防ぐというのがスウェーデンの戦略という。これについて感染者や死者の増加を前に、この方針には、国外だけでなく国内からも批判の声が上がっているが、政府は現時点で方針を変えようとしていない。

感染者と死者が野放図に増加している印象を受けるが、客観的な数字（先進15ヶ国での5月9日現在のスウェーデンの位置）を示すと、必ずしもスウェーデンのやり方がおかしいとも言えないようだ。

- ✓ 感染者数：25,265人（12位）（位はワースト順）
- ✓ 人口千人当たりの感染者数：2.57人（8位）
- ✓ 死亡者数：3,175人（10位）
- ✓ 人口10万人当たりの死亡者数：32.2人（6位）
- ✓ 感染者死亡率：12.57%（5位）

自然のままにしておくという裏側には個人に対する束縛をできるだけ回避する、経済活動をできるだけ温存するという思想もあると思われ、これはこれで多くのスウェーデン国民の理解を得られているのではないか。医師が疫学上の観点から強力な規制を要求するのは当然であろうが、政府としてそればかりで国家運営はできないと判断しているものと思われる。JRSレポートNo.4でも述べたように、感染防止対策については、疫学的見地からのみではなく、広く経済、社会、財政、人間心理の動向まで配慮していく必要があり、当分各国の試行錯誤が続けられることとなる。スウェーデンは一つの挑戦をしているように思われる。

以上